

◇質疑内容

利用者、イベント参加者等の声を把握されていれば、紹介願いたい。

また、地域や研究者と、これまでどのように連携してきたか、これまでの成果と課題等があれば、紹介願いたい。

○利用者、イベント参加者の声

【親子自然観察イベント（参加者アンケートより）】

・改めてゆっくり植物を見ることができてよかったです。探してみると色々な花があり、あぜ道でも場所によって違う花が咲いているのもわかり面白かったです。

・自ら現地に出向いて採取したものを持ち帰り調べるハンズオンが良かった。

・何度通っても毎回ワクワクしながら採ることができました。みんなで調べるのも楽しいです。

・大人も子どもも自由にできて色々な発見ができて楽しかった。

・数回参加する事で環境にも人にも慣れてきて、いろいろな人と話ができるようになった。

・子どもたちどうし打ち解けて自由に行動していた。

【親子理科実験イベント（参加者アンケートより）】

・身近な水など気にしていなかったのですが、違いや場所によってその水の性質が知れて面白かったです。

・井戸の水が意外と綺麗なことに驚きました。雨水が土の中や川を通ってくることで中性になるという自然の力がすごいと思った。

【季節更新企画展示（鑑賞者アンケートより）】

＜芦生写真展＞

・1998年より2018年との比較で森の景観が変わってしまったことにショックを受けました。

・生物多様性のホットスポットということがよくわかりました。

・芦生の森に実際に行ってもっと知りたくなりました。

・京都に熊がいることを知ってびっくりした。

＜鹿展＞

・鹿が増えていく理由をまとめたグラフパネルが印象に残りました。

・鹿害のことを初めて知りました。

・ハンティングゲーム（輪ゴム鉄砲）が面白かったです。輪ゴム鉄砲の教室を開いてください。

＜囲炉裏展＞

・ほっこりした気持ちになりました。日本の文化を守ってほしいです。

・昔の実家にあったことを思い出しました。

＜鮎展＞

・生き物としての鮎と食料としての鮎紹介が良かったです。

・鮎釣りゲームを子どもと楽しみました。こういうのいいですね。

【市民講座（参加者アンケートより）】

＜中世城館＞

・山城はかけがえのない宝だと思いました。

・城には地域性があり、築城には領主や村人、寺などが関わっていたことがわかった。

・丹波には様々な城があり、城館は地域の宝であること。

・講義だけでなく、実際の山城を歩きながらレクチャーを受けたい。

＜芦生研究林講演会＞

- ・芦生研究林の取り組み、植物の保全の重要性がわかりました。
- ・失われたと思った植生は回復するんですね。取り組みを応援しています。
- ・寄付はどうやったらできるんですか。
- ・芦生の森に行きたくなりました。どうやったら行けますか。

○地域や研究者との連携

【地域との連携】

各振興会や地域の有識者において、ビジターセンターで企画・作成しているガイドマップや展示パネル等の監修や内容確認、地域ボランティアによる地域内の定点写真撮影、また、地域住民からは、地域資源を活用した加工品の提供をいただいております、同センターの運営に寄与いただいております。

【地域との連携における成果と課題】

成果：ガイドマップ（4種類）の作成や毎月の定点撮影写真（国定公園内25カ所）の展示、地域資源を活用した加工品の販売を行うことができている。

課題：地域内には自然保護等、様々な環境保全活動を行っている団体があるが、ビジターセンターと十分な連携に至っていないため、今後は連携を深め各団体の取組みについて広報するとともに協働を図る。

【研究者との連携】

京都大学芦生研究林の研究者との連携において、研究成果の報告・還元のための交流会の開催や研究成果をわかりやすく解説した市民講座の開催、芦生に生息する希少生物等に関する写真展を開催している。さらに月例イベントにおけるプログラム監修や実地指導などをいただいております。

【研究者との連携における成果と課題】

成果：定例のイベントや写真展等を開催することができている。

課題：特になし